

# Shining ほいく



第29号 令和元年8月14日  
編集・発行 保育サービス課研修担当

① 前半の研修の様子から

② 「ヤゴの里親研修会」園内の活動報告

③ 実践報告「園内研修の進め方」

実践報告「楽しい運動遊び」

令和元年度も保育サービス課研修では、区内保育施設からたくさんの研修生が参加し、スタートしました。

「Shining ほいく」は研修の振り返りと実践への活用を目指し発行している機関紙です。

研修受講後、各園では“保育の質を向上するために”研修で学んだことを、どのように実践につなげていくか、色々と工夫をされていることと思います。

そこで「Shining ほいく」を読んでいただき……

- ① 「この間の研修どんな研修だった？」と園の先生と話すときに「参考になる！」
- ② ほかの園で、研修をどのように活用しているか知りたいときに「ためになる！」
- ③ 保育を改善したいとき「なるほど！と気づきがある」

そんな紙面になればいいなあと写真も掲載し、保育園の実践や保育の工夫、みなさんの声をお届けしていきます！！

研修を進めるにあたっては・・・  
環境・取り組む姿勢・聴く姿勢・良い雰囲気・積極性・考える力・計画・内容・進行・・・  
こんなことが大切！！

「園内研修の進め方」では・・・

同じ場面、事柄でも様々な視点があり、思うこと、感じることも何通りもあること、語りあうことが大事であるということ学びました。各園の状況に合わせ、研修に参加した先生がリーダーとなって、ワークを通して学んだことを活用し実践しましょう！！

1枚の写真を見てどんな状況・気持ち・環境などなど感じたこと、思うことを、どんどん出し合いました。



どのグループも初めて顔を合わせたメンバーですが、話がはずみ、笑い声も多く、活発な意見がでていました。

年齢に応じてバリエーションを変え、「たのしい！」の実感を伝えていきましょう。

「ふれあい体操」では・・・

遊び、生活を保障してあげるのが大人の役割で「時間・空間・仲間」の三間の確保が大切であることを、実技と講義の中から学びました。年齢に応じてバリエーションを変え、保護者へ伝える機会も考え活用していきましょう。

「かっぱのお皿」  
「ついてこーい」「とってこーい」楽しい言葉のリズムにのって・・・



もみじ保育園

年長さんが餌をあげているところ  
ヤゴの目の前で箸でつかんだ赤虫を揺らし  
て生きているように見せるのがコツ！！



大山西町保育園 幼児交流より  
「やごのすけものがたり」をスライドショーで  
みました。  
みんな真剣な表情・・・



ヤゴがトンボになる様子

クイズです！トンボの  
「子どもはどれかな？？」

では、とんぼの子どもは  
どれか わかるかな？？



大山西町保育園のヤゴが  
トンボになりました。



### 高島平けやき保育園の研修を通した実践報告

#### 【研修内容・研修の様子】

まずはじめに、「園内研修とは何か」についての講義を受けました。研修に参加して、“分かったつもり”になり、いざ実践しようとする”分からなくなってしまう”ことが多く、一人ひとりが研修内容を自分ごととしていく事の大切さなどを学びました。

次に行われたグループワークでは、実際の園内研修を想定して保育の一場面の写真をみて気づきを話し合ったり、ファシリテーターに必要な要素について意見を出し合ったりしました。

6月5日

園内研修の進め方  
講師 川辺尚子先生



## 園内研修の取り組み報告



昨年より PT 担当として園内研修を行っています。これまで数多くの研修を受けてきましたが、いざ自分が園内での研修を企画・運営する立場となると、テーマは何にするか、どう進めるのか悩むことばかりでした。

もう一人のメンバーと試行錯誤しながら進めている中で、今回川辺先生の研修を受講しました。

川辺先生の研修は、園内研修を進めるうえで必要なこと、集団の舵取りをするファシリテーターとしての役割など、とても具体的でわかりやすく早速6月の園内研修で実践することが出来ました。

テーマは「連絡帳の書き方」。連絡帳が複写式になり、日誌の個別記録になったことをうけて選んだテーマです。保育の一場面を動画で撮影し、連絡帳に書きおこすのですが、副園長と相談し職員を三つのグループに分けることで ①若い職員がベテランの職員の書き方を学べる場にする。 ②ベテランの職員が若い職員の手を引いたり、アドバイスしたりできる場とする。という二つのねらいも新たに組み込むことが出来ました。

園内研修は三十分ほどでしたが、その中で人それぞれ着目するポイントが異なっていたこと、同じ遊びでも表現の仕方で受け手の印象が異なることなど多くの気づきがありました。

現在は一回目の園内研修の反省を元に、二回目の園内研修の計画を立てている最中です。悩んだ時には川辺先生の研修で学んできたことに立ち返り、残り二回の研修が職員にとって実りあるものとなるよう努力していきたいと思っています。

### かないくぼ保育園の研修を通じた実践報告

#### 【研修内容・研修の様子】



園内研修の進め方の実践例の紹介や、実際にワークを試していききました。園内の共通理解と語り合い考え合う関係性の向上を目指して園ではどんなことができるかを学びました。写真を使っのワーク、ファシリテーションのやり方についてはとても勉強になりました。

## 園内研修の取り組み報告

かないくぼ保育園には4つの PT があり、昨年度は人材育成 PT で園内研修を行いました。保育所保育指針が変わり保育課程を見直す中、新人も中堅もベテランも様々な保育士がいる中で、かないくぼ保育園としてどのように保育を行っていくか、それぞれの保育観を出し合い共有しました。

今年度の園内研修は、昨年度の取り組みがどのように保育に活かされてきたかワークを生かしながら、今回の研修で得た知識を使い、更にバージョンアップさせて進めていこうと計画中です。昨年の園内研修で「足りなかったこと」「これからできること」として出されたものの中からテーマをしばって、写真を使っのワークの手法を使ってみようと考えています。子どもたちだけではなく、進める大人たちも楽しく能動的に過ごしていけるように・・・を参考に園内研修を活発に進めていきたいと思っています。



6月13日

楽しい運動遊び

講師 倉上千恵先生

【研修内容・研修の様子】

講義では年齢から見る運動発達を学び、運動遊びをすることで①心の発達②体の発達③脳の発達を促すことが出来る”ということ学びました。また参加した保育士がグループに分かれて各々が持っている知識を出し合い、遊びについて意見交換をしたことも、とても参考になり刺激になりました。

印象に残ったことは、どの年齢もハイハイや高這いが重要なこと、縄遊びは0歳児から展開出来ること、じゃれつき遊びは意欲的な子どもが育つことでした。また、保育士が話す声のトーンや運動遊びの始め方、終わり方なども具体的に教えて頂き、実践に即した内容でした。

園内研修の取り組み報告

乳児編

**ハイハイや高這い**・・・2才児クラスでは毎週1回程度の頻度でリズム遊びを取り入れてきました。いつもの動きの中に、研修で学んだハイハイや壁逆立ちをやってみると保育士の“できないかも？”という不安をよそに、ほとんどの子ができました。できたことが嬉しくて「もう一回！」と楽しむ姿は自信となって嬉しそうでした。

**じゃれつき遊び**・・・男児の人数が多い2才児クラスは、最近戦いごっこがブームでした。そこで友だちに対する力加減、相手への距離感、体感強化などに適しているじゃれつき遊びの一つ“相撲”を取り入れました。相撲好きの子がいたこともあり興味津々で取り組みました。初めはすぐに押される子や、びっくりして尻もちをつく子もいましたが、取り組みを繰り返すことで押し方がわかり、勝ったり負けたりを楽しめました。子ども達からは自然と「がんばれ」という応援や拍手が聞かれ、白熱した活気ある雰囲気の中で遊ぶことができました。怪我も多くなる年齢ですが少し難しいことにもチャレンジし、日々の保育に運動遊びを取り入れていきたいです。そして人との肌の触れ合いを大切に、意欲的な子どもたちが育つよう、楽しんでいきたいと思ひます。

幼児編

**高這い**・・・5歳児クラスは男児グループ、女子グループに分かれてリズム遊びをしました。最近あまりやっていたいなかったので、小さい頃から頻繁に繰り返し取り組んでいたため、張り切って遊ぶ姿が見られました。高這い（ライオン歩き）ではお尻をきちんとあげるのは難しい子も見られました。

**手押し**・・・二人で向き合い、手を合わせて押し合う遊びです。話を聞いていないと楽しさが解らなかつたり、相手の力加減を感じながら同じ力で押すことは経験が少ない子ども達には難しかったようでした。繰り返し継続していくことが大切だということを実感しました。

**縄遊び**・・・ただ跳ぶだけでなく短縄で数字や形を作ったり、そこを跳び越えたり縄を避けて走ったりしました。“ぶつかるとは？”と心配もありましたが5歳児になると相手を意識して動き、反射的に“避け合う力”が育ってきていることも解り、成長を確認することができました。子どもたちが遊びを通して自己肯定感を高め、就学してからも楽しく身体を動かせるように、一緒にチャレンジしていきたいと思ひます。